なる心おはする、との○道隆子伊周のよのまつりごとし給はむとて、あはたどの○道長兄道兼にわたりにしぞかし、ふりをこはゞうつはものをまうけよ、と申事、まことにあることなり、

〔源平盛衰記二十二〕佐殿漕會三浦事

和田小太郎○義盛申ケルハ、○略中君カクテ御座セバ、今ハ眞ニ一入思ヒ入テ、平家ヲ亡シ、本意ヲ遂テ、君ノ御代ニナシ參セ、庄園ヲ賜リ、國ヲ知行セン事ヲ評定シ給フベシ、食ヲ願ハゞ器ト云下說ノ喩アリ、君モ疾々國々庄々ヲ分ケ給リ候ベシ、中ニモ義盛ニハ日本國ノ侍ノ別當ヲ賜リ候ヘ○略中トゾ申ケル、

〔長明無名抄〕不可立歌仙之由敎訓事

おなじ人○筑州故常に敎ていはく、○略中さてなにごとをもこのむほどに、その道にすぐれぬれば、りふくろにたまらずとて、そのきこえありて、然るべき所の會にもまじはり、雲客月卿のむしろのするにのぞむ事もありぬべし、

〔北條五代記二〕岡山彌五郎木下源藏討死の事

かるが故に、武士は先もつて文をまなび、武略をたしなんで、忠を盡し名を萬天の雲井にあげ、面目をしそんにほどこさんとす、今のわかき衆は文武の學びはかつてなく、人より先だてば武威をあらはし、くびをも取と心えて、兩人が如きの犬死し、却て敵に德をゆづり、みかたにをくれをとらせ、忠はなくして不忠をかせぎ、人間一大事の命、徒に失ひぬ、縱ば出るくゐのうたるゝと俗にいふごとし、牛馬をつなぐ杭に德あり、德なくして出る杭いかかでうたれざらん○略下

〔世鏡抄〕兒垂髮之法儀事

前車ノ覆ヲ後車ノイマシメトスベシ、唯侍ハ蝸牛ノ角ヲ惜テ、梢ヨリ身ヲ捨テ死シ、虎ノ一毛ヲ惜ミテ、舍風死シ、龍ノ龍門ノ瀧ヲ望テ、原上ノ土トナル事ヲ、ツヤ〳〵羨ミ思ベキ也、